平成29年度　学校評価書（自己評価及び学校関係者評価）　　香美市立大栃中学校 学校教育目標　「主体的に学び、主体的に行動できる生徒の育成」

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容		取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価	学校関係者評価
確かな学力	B	①小・中学校で学びを繋ぐため「物部の授業スタンダード」の定着を図る。 ②主体的・対話的に学ぶ授業を創造することで、思考力・判断力・表現力を養う。 ③家庭・地域との連携により、家庭学習の充実と基礎・基本の定着を図る。	①小・中教職員が一貫した「授業スタンダード」の流れを確認し及び実践の共有することで「学び」を繋いでく。 ②授業改善のための校内研修を充実させ、「授業スタンダード」の質の向上を図る。教科間連携を図り、教科の枠を超えた授業力の向上を研究する。 ④家庭訪問や広報活動の充実により、家庭と連携して家庭学習の質と量を高めていく。 ⑤学期ごとにPDCAで振り返りを全教職員で行う。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	○研究主任及び「授業づくり部会」主導により組織的な授業改善を図る。（校内研、アンケート、改善策） ○アンケート結果や校内研の実施後は、課題克服のための実践の共有化を図る。（教員の学びを実践につなぐ）	①「授業スタンダード」自己評価における肯定的評価100% ②授業評価アンケート各項目平均3.5以上 ③学期末に次学期学力向上の取組を確認する。	①自己評価100% ②6項目全て平均3.5以上（平均3.67） ③授業づくり部会を中心としたPDCAを確立し取組を進めた。 教科間連携事業の活用に	①指導案作成→参観→協議の機会を多く持つことで相互学び合いによる「授業スタンダード」の質を高める。 ②アンケート内容の精選及び効果的な活用を図る。 ③教科間連携事業及び改善プラン訪問の効果的な活用を図る。	「授業スタンダード」の定着感はあります。自分で考えることの重要性や学習の流れ等を再確認し、更なる定着を図り、学力向上に結び付けてください。 学力には個人差があるので、何か問題があれば、その原因の早期発見・早期対策が必要と考えます。少人数校のメリットとして個々に対する分析・指導等が充実すれば、全体の底上げにつながるのではないかと思います。 放課後学習は先生と協力者がしっかりと連携して、家庭学習も含め、子ども達の学習意欲を高めていってほしいと思います。	A
				子どもにわかる授業づくり（授業づくりスタンダードの活用など）	①「授業改善プラン訪問」「教科間連携事業」における各チーム会を活用し、授業スタンダードの質の向上を図る。②自己評価及び他者評価により、授業スタンダードを定着させ、さらに質の向上を図る。	①県版学力調査において、1年生・2年生ともは県平均＋10P以上、②教科間連携アンケート（強い肯定40%）「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で振り返れた」	①県版学力調査において、1年生・2年生ともは県平均より厳しい可能性大 ②教科間連携アンケート（強い肯定40%）「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で振り返れた」	①根拠に基づいて説明する機会をどの教科でも組織的に行う。 ②授業者の説明を中心とした授業ではなく、生徒の主体性を重視した授業を行う。 ③めあて→まとめ→振り返りを		
				学校全体で予習・復習（宿題）の質と量を高める取組	①「家庭学習の手引」「学ぶ眼」を活用し、主体的な学びの促進を図る。（家庭訪問・三者面談時） ②学活時に家庭学習の振り返りの場を設定する。 ③肯定的評価により意欲を高める指導を行う。 ④個に応じた指導の充実（放課後や定期テストの取組）	①市アンケート調査（7月・11月）「平日の家庭学習時間」 90分以上の生徒→60%以上.30分未満8%以内 ②学校評価アンケート（11月）「毎日家で宿題や予習をしている」生徒割合85%以上	①「平日の家庭学習時間」90分以上63% 30分未満12% ②「毎日家で宿題や予習をしている」肯定的評価80%	①授業の終末に家庭学習に繋がる指導・支援を行う。 ②放課後学習やテスト前学習会、終学活での取組みを重視し、家庭学習の質と量を高める。		
豊かな心	A	①保・小・中と連携し、地域との協働により、物部がめざす子どもの姿である「郷土愛」「チャレンジ精神」「コミュニケーションカ」を育む。 ②よりよい人間関係づくりを推進することで、規範意識及び自尊感情の高揚を図る。	①講師招聘校内研修により、教職員の教育力・指導力を高める。 ②「総合的な学習の時間」の充実した取組をを通じて、主体性を育む。 ③保・小・中の子どもの交流や発表会の実施により、子ども同士の発達段階に応じた好ましい人間関係を構築する。	①生徒の主体性を育むための教職員の意識化及び実践の共有化 ○校内研修の実施（テーマは、チャレンジ精神・コミュニケーションカ）年3回 ○道徳参観日及び人権教育参観日の内容を工夫し、保護者・地域の方の参画を促す。 ②生徒会活動の充実 ○今までの実践を振り返り、主体的な行事の充実や振り返りを図る。 ○高知商業生徒会との連携を図り、発表会を実施し、表現力の向上を図る。 ③よりよい人間関係づくり ○縦割り班を中心とした行事や清掃活動等の実施により、その学年に応じた人間性を育む。○室戸合宿や、地域貢献活動を通じ、好ましい人間関係の育成を図る。		●アンケート結果（肯定的評価の割合） ①「自分には良いところがある」90% ②「学校のきまりを守っている」95% ③「人の役に立つ人間になりたい」95% ④「学校が楽しい」95% ⑤「自分の住んでいる地域が好き」100% ●学校生活の充実 ①いじめの発生率　不登校出現率0% ②Q-U学校生活不満足群4%以内	●アンケート結果（肯定的評価の割合） ①「自分には良いところがある」75% ②「学校のきまりを守っている」92% ③「人の役に立つ人間になりたい」88% ④「学校が楽しい」87% ⑤「自分の住んでいる地域が好き」100% ●学校生活の充実 ①いじめの発生率4件　解決率100% 不登校出現率0%	(しつける内容) ①「聴・話す」態度、姿勢 ②場に応じた言葉づかい ③時間を守る (勇気づけのための手だて) ④感謝の気持ちを伝える ⑤タイムリーな評価を与える ⑥「総合的な学習の時間」、「学校行事」及び授業の中で、「チャレンジタイム」を作る ⑦チャレンジに対して、肯定的評価を多くする	子ども達の日頃の姿勢・挨拶・お礼等見る限りでは、心は育ってきていると感じます。しかし、アンケート結果からはまだ改善の余地があり、それに向けての努力が必要だと思います。 いじめ発生が4件していますがいじめに対する共通認識を持ち、許さないという姿勢が必要と考えます。子どもにしっかり目を向けてください。	A
健やかな体	A	①運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る。 ②体育的行事や体育の授業を通じて、主体的に運動を行う意欲を高める。 ③部活動の充実を図り、体力面や精神面の向上を図る。	①基本的な生活リズムの定着が運動能力や体力の向上、健康な体作りに繋がることを生徒、保護者にも啓発していく。 ②発達段階に応じ、適切な評価を行い、体力、運動能力を高める体育的行事や体育の授業を工夫する。	①運動習慣・生活習慣の定着、体力向上の意識化 ○効果的なアンケートの実施や改善策の提示することにより、定着・意識化を図る。 ○「物部っ子生活リズム計画」の活用を図る。（配布・説明・掲示） ②体育行事及び体育の授業の充実 ○運動会やマラソン大会の取組や実施後の振り返りを充実させ、満足感を高める。 ○体育の授業における授業スタンダードの実施や授業研、授業評価アンケートを活用することにより生徒を主体とした授業の推進を図る。 ③部活動の充実 ○キャプテン会の実施や外部指導者を活用し、主体的に活動できる体制を構築する。		①基本的生活習慣の確立 ゲーム・スマートフォン・テレビの時間2時間以内50% ②アンケート結果（肯定的評価の割合） ◇「体育の授業が楽しい」90% ③アンケート結果（肯定的評価の割合） 「部活動が充実している」85%以上 ※加入率は100% ●全国体力・運動能力・運動習慣調査 全国平均を上回る	①基本的生活習慣の確立 ゲーム・スマートフォン・テレビの時間2時間以内54% ②アンケート結果（肯定的評価の割合） ◇「体育の授業が楽しい」96% ③アンケート結果（肯定的評価の割合） 「部活動が充実している」92%以上 ※加入率は100% ●全国体力・運動能力・運動習慣調査 全国平均を上回る	①家庭と連携し「効果的な睡眠」という質についても意識させる。 ②家庭・地域と連携し、「物部の生活習慣改善計画」の効果的な活用を図る。③テレビやスマホについてのルールづくりもかねて「香美市ネット宣言」の啓発・普及に努める。 ④部活動については外部指導者と連携し、子どもが主体的に活動できる部活動をめざす。⑤「物部地域学校協働本部」との協働で運動会やマラソン大会などの体育行事を盛り上げる。	長時間のTVゲームやユーチューブ等の悪影響が心配されます。「ネット宣言」はどこまで効果があるのか今後の検証をお願いします。また、保護者の意識改革も必要でありPTA役員会等でも話題にしていただければと思います。 スマホやタブレットはこれから生活必需品でもあり、学習に役立つものとして、また生活を便利で豊かにする道具としての認識を高めていただきたいと思います。プロを呼んでの指導を検討してみてください。 体力はすべての基本です。家庭学習や生活習慣の影響にも注意していただければと思います。	A
保護者地域との連携	S	持続可能な「地域とともにある学校づくり」を確立する。計画的な協議会や打ち合わせ会を実施しながら「熟議・協働・マネジメント」を行い、高知県内においても模倣的な体制づくりの研究をすすめる。	①学校運営協議会の計画的開催（6回）と教職員との熟議の実施 ②物部地域学校協働本部の計画的開催（年3回）と各部会の活性化による協働の推進 ③物部地域ボランティア委員の確保	①福祉教育・地域貢献活動・体験活動を基盤とした取組 ○付けるべき力を明確にした行事を仕組む。（郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーションカ）★まちた活動（湖水祭り・小中合同運動会・火鎮際・生きがい教室・物部っ子祭り）○行事後のふりかえりを充実させることで、「学び」と「経験」を将来につなげる。③持続可能な「地域とともにある学校づくり」の構築 ○大栃保・小・中学校運営協議会の取組の充実（年6回　熟議・協働・マネジメント）○物部っ子を育てる会の取組の充実（年3回各部会の実施　緩やかなネットワーク　協働）④保小中一貫教育の促進 ○PTA合同講演会の実施　○授業スタンダード　○物部っ子生活リズム計画		②道徳参観日及び人権参観日の保護者出席率で平均70%以上。 ③保護者アンケート「学校は情報提供に努めているか」肯定的評価80%以上。 ④物部地域ボランティア名簿200人以上 ⑤ボランティアの方々が100日以上関わる ⑥「家庭生活7か条」「物部っ子生活リズム計画」の各家庭への配布と説明 ⑦子育て講演会の実施（参加者70名）	②道徳参観日及び人権参観日の保護者出席率で平均70%。 ③保護者アンケート「学校は情報提供に努めているか」肯定的評価96%。 ④物部地域ボランティア名簿80名 ⑤ボランティアの方々が150日以上関わった⑥実施 ⑦子育て講演会の実施（参加者70名） ○小中合同PTA役員会の実施 ○アクションプランの協議 ○学校支援地域本部事業研修会及び物部っ子祭り大成功 ■文部科学大臣表彰受賞	①「湖水祭り」「生きがい教室」「物部っ子祭り」等の取組を保・小・中と地域との協働で定着、充実させる。 ②カリキュラム・マネジメントの共有と周知を図ることで、物部がチームとして実践を行うことができる体制を構築する・。 ③「大栃保・小・中学校運営協議会」における「熟議」、「物部地域学校協働本部」における「協働」、「物部の教育を考える会」においての「マネジメント」の充実を図る。	今年度より、コミュニティスクールがスタートし、地域の皆様の協力・参画もあり、内容も充実した多くの体験学習が出来ていると思います。しかし、行事や事業が今後増える事は、子どもや保護者の負担増になるのではないかと心配されます。今あるものの内容を再検討し、より充実したものへと変えていき、大きな達成感が得られるようなものにしていただければと思います。	S
特別支援教育	B	①特別支援学級に在籍する生徒へ効果的な支援を行う。 ②通常学級に在籍する支援が必要な生徒への効果的な手立てや支援を行う。 ③SC・SSWとの連携を図る。	①校内支援委員会の計画的な実施及び支援シートの作成及び活用。 ②特別支援をテーマにした校内研修を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図る。 ③SC・SSWと連携し、支援体制を確立する。	①支援シートを活用し、校内支援会や職員会で、生徒の課題や支援方法について、常にベクトルを合わせ、実践の共有化を図る。 ②職員会で常に生徒理解を議題にあげると同時に、課題のみならず、成長を報告、確認しあい、肯定的評価を積極的に行う。 ③特別支援やユニバーサルデザインをテーマにした校内研修を学期に一度は実施し、教職員の資質・指導力の向上を図る。 ④SC及びSSW来校時には特別支援コーディネーターを中心に細かく生徒の様子の打合せをし、細やかな支援に繋げていく。⑤月1回の保小中の園長・校長会や学期に1度の支援会を充実させ、保小及び小中をしっかりつなぐ。		①欠席日数が、1学期末5日以上、2学期末10日以上、3学期末15日以上の生徒数0 ②計画的な校内支援会の実施（月1回） ③特別支援教育をテーマにした校内研修を年3回実施する。（組織的なTTの実施策の共有） ④特別支援学級生徒アンケート（11月）「学校が楽しい」肯定的評価100%。	①欠席日数が、1学期末5日以上、2学期末10日以上、3学期末15日以上の生徒数0 ②計画的な校内支援会の実施（2月に1回） ③特別支援教育をテーマにした校内研修を年2回実施。 ④特別支援学級生徒アンケート（11月）「学校が楽しい」肯定的評価100%。	①SC・SSWとの連携で、支援が必要な生徒に対する効果的な実践の共有を図る。 ②必要なら早めに教育相談を実施する。実施後は速やかに改善策及び実践の共有を図る。 ③校内支援会・校内ケース会の効果的な実施を通じ、特別な支援を要する生徒が輝く学校づくりを行う。 ④講師招聘研修を学期に一度実施し、教職員の力量を高め、生徒の自尊感情を高めていく。	支援が必要な生徒に対しての問題への取り組みは真摯に努力されていると評価します。 少人数校であるメリットを生かせての指導を継続してもらえればと思います。 保・小・中の更なる連携強化もお願いします。	A